

# ② 飼料用稲生粉サイレージの増収・品質向上・省力化技術の開発

## (現状)

### 【耕種農家】

- 栽培未経験などの理由により、飼料用米の多くは既存の食用品種を利用。
- 飼料用専用品種の本県での栽培技術指標がない。

### 【畜産農家】

- 家畜へは年間を通して良質のサイレージの供給が必要で、嗜好性の良いものが求められる。
- 籾米は給与時に破碎が必要で、各畜産農家においては破碎機の追加装備が必要。

## (課題)

- 福井県に適する収量性の高い専用品種の選定が必要。
- 専用品種に応じた収量や品質を高める施肥方法、調製方法の確立が必要。

- 年間給与が可能となる12ヵ月以上の長期保存性および品質向上技術の確立が必要。

- 生粉サイレージは調製時に破碎し、発酵保存後、給与するため、各畜産農家において破碎機の導入が不要。

## (研究目標)

- 生粉サイレージ生産量 1t/10a
- 保存期間 12ヵ月超
- 貯蔵後の発酵品質 80点以上



## (期待される成果)

- サイレージ用籾米生産による生産額増 生産額：9千円/10a増
- 乾燥作業省略による生産費低減 低減額：12千円/10a以上
- 畜産農家の飼料費の低減 低減率：10%以上
- 生粉サイレージによる水田有効利用の拡大 拡大面積：121ha

## (研究内容)

### ①生粉サイレージ品種の選定、栽培方法の確立

- 栽培試験による品種の選定、施肥量および刈り取り適期の検討、ならびにサイレージ品質の検討

### ②生粉サイレージの長期保存性および品質向上技術の確立

- 乳酸菌添加および水分添加量と保存性の検討
- 充填バッグの素材と保存性の検討
- 嗜好性を高める添加物および発酵技術の検討

